

球磨地域における茶新品種「みなみさやか」の生育特性

クワシロカイガラムシに対して抵抗性を有する緑茶新品種「みなみさやか」は、球磨地域において主要品種「やぶきた」より摘採期が2日遅いやや晩生の品種であるため、摘採期を拡大することができる。また、収量は一、二番茶とも多収であり、荒茶品質面でも内質や荒茶成分は優れている。

農業研究センター球磨農業研究所（担当者：西澤 法聖）

研究のねらい

球磨地域は県内有数の茶生産地帯であり、乗用型摘採機の導入が行われ、大規模機械化体系での生産が行われている。しかし、主要品種「やぶきた」が栽培面積の約9割を占めており、作業集中の問題がある。また球磨地域として、特徴のある茶生産も求められている。

そのため、球磨地域の気象条件に適応し、「やぶきた」との競合がなく、特徴ある茶生産に適応する品種の選定を行う。

研究の成果

1. 「みなみさやか」の収量は、球磨地域の気象条件において一、二番茶とも「やぶきた」と比べ多収である（図1）。
2. 荒茶品質は形状、色沢でやや劣るものの、内質面では「やぶきた」と比べても同等である。また、荒茶成分では全窒素含有量が「やぶきた」に比べても高い（表2、3）。
3. 球磨地域における「みなみさやか」は主要品種「やぶきた」より萌芽期は平均で3日遅く、摘採期は「やぶきた」より平均で2日遅い（御船町茶業研究所と同じ）やや晩生品種であり、摘採期の拡大が期待できる（表4）。

普及上の留意点

1. 定植後5～7年目の成果である。
2. 品種の特徴として、茶重要害虫であるクワシロカイガラムシに対して抵抗性があり、本害虫の発生が多い地域での導入が可能である（表1）。
3. 色沢がやや黒みを帯びやすいため、リーフ茶としては被覆等により色沢を改善する必要がある。また、品種の特徴である「花香」の香りが出るため、販売先の用途に合わせた製造が必要である。

表1 品種の特徴

品種名	育成場所	特徴
みなみさやか (茶農林42号)	宮崎県	直立型で樹勢は強。摘採期は「やぶきた」より平均1日遅い。 病気に対して強く、クシロカガラムシに対して抵抗性がある。 香気に特有の「花香」がある。

注) 宮崎県総合農業試験場研究報告第31号より抜粋。

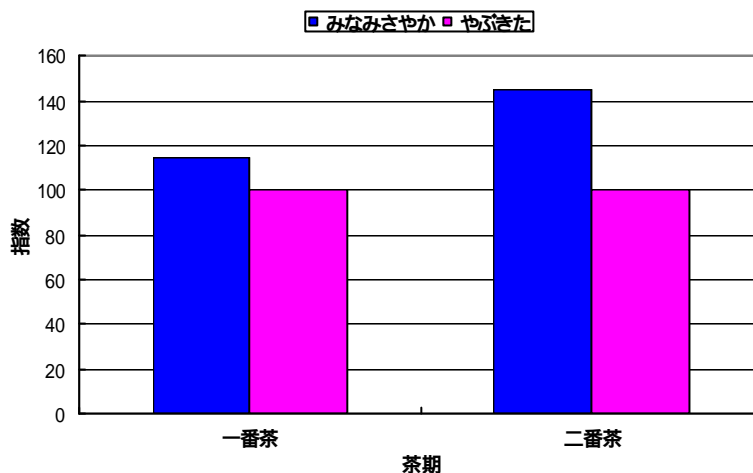


図1 'みなみさやか' と 'やぶきた' の一、二番茶収量比較

注1) 一番茶は2006～2008年の3ヵ年平均、二番茶は2007年の数値。

注2) 'やぶきた' の収量を100とした場合の指数表示

表2 各品種の官能審査結果

品種名	形状	色沢	香気	水色	滋味	内質計	合計
みなみさやか	17.3	18.3 やや黒み	19.7 花香	19.0	19.7	58.4	94.0
やぶきた	19.3	19.0	19.7	19.3	19.7	58.7	97.0

注) 審査は6人の合議制による20点満点評価。2006～2008年の3ヵ年平均。

表3 各品種の荒茶成分分析結果

(乾物%)

品種名	全窒素	遊離アミノ酸	テアニン	粗繊維	タンニン	N/F値
みなみさやか	5.6	3.5	1.9	19.2	12.5	0.30
やぶきた	5.4	3.3	1.8	20.0	12.5	0.27

注1) 2006～2008年の3ヵ年平均。

注2) 近赤外分光光度計RT-3による分析結果。

表4 各品種の萌芽期及び摘採期

品種名	場所	萌芽期	摘採期
みなみさやか	あさぎり町(球磨農研)	4月6日	5月10日
	御船町(茶業研究所)	4月1日	5月2日
やぶきた	あさぎり町(球磨農研)	4月3日	5月8日
	御船町(茶業研究所)	3月28日	4月30日

注) あさぎり町は2006～2008年の球磨農業研究所における3ヵ年平均。御船町は2005～2008年の茶業研究所における4ヵ年平均値。